

製品名: TIEG-1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18926**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	KLF10/11
別名	KLF10; TIEG; TIEG1; Krueppel-like factor 10; EGR-alpha; Transforming growth factor-beta-inducible early growth response protein 1; TGFB-inducible early growth response protein 1; TIEG-1; KLF11; FKLF; TIEG2; Krueppel-like factor 11; Transfor
遺伝子 ID	7071/8462
SwissProt ID	Q13118/O14901
免疫原	抗血清はヒト KLF10/11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 391-440

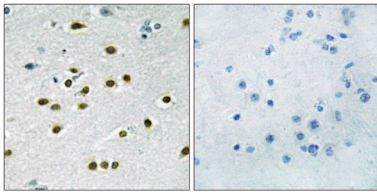
背景

この遺伝子は、C2H2型ジンクフィンガードメインを有するタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、トランスフォーミング成長因子βシグナル伝達のエフェクターとして機能する転写抑制因子です。このタンパク質の活性は、癌、特に膵臓癌の増殖を阻害する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年6月],機能: 細胞増殖の調節に関与する転写抑制因子。細胞増殖を阻害します。コンセンサス配列 5'-GGTGTG-3'に結合します。誘導: TGF-βによる。PTM: ユビキチン化。SIAH1によって媒介され、その後プロテアソームによる分解を引き起こします。類似性: Sp1 C2H2型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属します。類似性: 3つのC2H2型ジンクフィンガーを含みます。,

研究分野

-

画像データ



KLF10/11 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。